

皆さん、こんばんは。四條畷高校校長の松本と申します。まずは、このような素晴らしい宴の席を、ご準備いただきました守口市の皆様に、深く感謝申し上げます。河北楠葉会の皆様には、平素より本校の教育活動に格別のご理解と、物心両面にわたり、多大なご支援を賜っておりますこと、この場をお借りいたしまして、厚くお礼申しあげます。誠にありがとうございます。昨年もお声掛けをいただきながら、出席できずに申し訳ございませんでした。こうして、皆様にお会いできますことを、とても心待ちにしておりました。本日は、よろしくお願いいたします。

ご承知のとおり、本校は、１９０３年に府立第９中学校として創立され、今年度で創立１１６年となります。今年度入学した１年生が、高校７４期生。私は、高校３０期生ですので、７４－３０の答えの大きさに、改めて、過ぎた年月をしみじみと感じております。貴重なお時間を頂戴いたしまして、現在の四條畷高校につきまして、お話させていただきます。

四條畷高校は、２０１１年に、大阪府の進学指導特色校（ＧＬＨＳ）の指定を受け、普通科に加えて、文理学科を併置いたしました。２０１２年に、文部科学省のスーパー・サイエンス・ハイスクール（ＳＳＨ）、２０１４年に、同じく文部科学省のスーパー・グローバル・ハイスクール（ＳＧＨ）アソシエイトの指定を受けました。そして、昨年２０１８年には、全クラス文理学科となるとともに、スーパー・サイエンス・ハイスクール（ＳＳＨ）第Ⅱ期の研究指定を、新たに５年間受けました。さらに、今年度、ＳＧＨの後継事業である、ワールド・ワイド・ラーニング（ＷＷＬ）コンソーシアム事業連携校の指定を受けました。

現在の四條畷高校の最大の特色は、「課題研究」の充実です。本校では、オール文理学科になる以前から、生徒全員が課題研究に取り組んでおります。１年生で基礎を学んで、２年生で研究成果を発表し、３年生でその成果をまとめます。大切なことは、自分たちで課題を見つけて、本校教員、大学教授、民間企業、ＮＰＯの方や大学生、大学院生など、様々な人のサポートを受けながら、研究を行い、その結果をわかりやすい言葉や方法で発表する。その発表に対して、時には厳しい意見を受けながら、さらに研究を深めていく。そのことで、「思考力・判断力・表現力」を身につけるとともに、チームで取り組むことにより、「主体性・多様性・協働性」を養うことができます。そして、課題研究で培ったこれらの力こそが、大学進学後、そして社会に出てから一番求められている力だと、私は、固く信じております。

多彩な「国際交流活動」も、現在の四條畷高校の特色です。２年生の修学旅行は、１０月に３泊４日で台湾に行き、台北の松山高級中学校と交流を行います。１２月には、３４期生の眼科医 服部匡志先生のご指導の下、ベトナムで医療ボランティア活動を行います。３月には、オーストラリアの姉妹校バンダバーグ州立高校で、体験授業とホームステイを行います。また今年度から、課題研究の優秀グループを、海外の高校生発表大会に派遣しております。この７月に、シンガポールで、２組が発表を行いました。

進路につきましては、近年、各大学が実施している特色入試に、日頃の課題研究の成果を活かし、積極的にチャレンジしてくれています。京大に１名、阪大に２名、新たに始まった神戸大に２名が、それぞれ合格しました。入試全体では、京大１０名（うち現役８名）・阪大２９名（うち現役１８名）・神戸大３１名（うち現役２４名）で計７０名（うち現役５０名）をはじめ、国公立大学には、１９２名（うち現役１３９名）が合格しました。昨年度は、京大・阪大・神戸大、合わせて６３名、国公立全体で１８５名でしたので、このように国公立大学の合格者数は、年々増加しております。最終的な進路先とし

て、現役生のうち、約4割が国公立大学、同じく約4割が関関同立を中心とする私立大学、約2割が浪人という結果でございました。生徒も教職員もよく頑張ってくれていて、毎日の授業に加えて、隔週土曜日の全員参加の講習、放課後や長期休業中の講習、午後8時までの自習室の開設と、教職員の手厚い指導に、生徒たちもよく応えてくれています。毎年行っている「暇高アンケート」で、「先生は、生徒の質問によく答えてくれますか」「四條暇高校に入学してよかったと思いますか」に対する生徒の肯定的回答が、ともに96%であることは、私の自慢であり、誇りです。

部活動では、現在96%の生徒が何らかの部活動に参加しております。昨年度、近畿大会には、ソフトテニス、水泳、卓球、軽音楽、囲碁が出場し、囲碁は、全国大会にも出場いたしました。今年度は早くも、ソフトテニス、卓球、山岳、バドミントン、写真が、近畿大会、そして陸上、ソフトテニス、囲碁、軽音楽、珠算が、全国大会出場を果たしました。昨年度から、本校Webページ上に「部活動ブログ」のページを新設し、それぞれのクラブが、活動の様子を紹介しておりますので、ぜひご覧ください。私も「校長ブログ」で、生徒たちの活動の様子を紹介しております。

最近、新聞に、四條暇高校がよく登場しています。朝日新聞に、野球部とギターマンドリン部、産経新聞に、野球部と写真部。そして、毎日新聞「わたしの母校」に、7週連続で、7人のOB・OGの方が登場されました。担当記者さんのお話では、「皆さん、暇高のためならという愛校心が強く、お忙しいにもかかわらず時間をさいてくださいます。伝統校ならではのですね。」とのことでした。夏休みに、東大・京大・阪大・神戸大の研究室訪問を行っていますが、各大学にお勤めのOB・OGの方が、快く受け入れてくださいます。大学生・大学院生のOB・OGも「学生TA」(Teaching Assistant)として課題研究活動等の指導・助言に来てくれています。今年度は、高校67期～71期の計12名の学生がTAに登録してくれています。「四條暇高校を卒業することを誇りに思いますか」の質問に、94%の生徒が「はい」と答えています。これは、GLHS10校の中で、一番高い結果です。ありがたいことです。

四條暇市との連携も充実しております。課題研究グループによる「みんなの夢 AWARD in 四條暇」での、町おこし企画の発表。そのうち、四條暇産の米を使った卵を使わないオムライス「サンタクライス」は、商品化されました。同じく課題研究グループによる、四條暇市公式紹介ビデオ[日本語版]の製作、及び四條暇市の国際友好都市であるドイツ メアブッシュ市向け学校紹介ビデオ、四條暇市紹介ビデオ[英語版]の製作。生徒会による、四條暇小学校5年生対象の「スマホやネットの正しい活用について」の授業実施。放送同好会による四條暇市インターネットテレビ「なわチャン!」への出演。サッカー部による「四條暇マラソン」「くすのきフォトロゲイニング in 四條暇」へのボランティア協力、など多彩な活動を行い、「Think Globally, Act Locally.」(地球規模で考え、足元から行動せよ)を体現しております。

まだまだ、現在の四條暇高校について、お話ししたいことは、たくさんございますが、それはこの後の、宴席の中でと、させていただきます。今後も創立以来の教育方針である「質実剛健」「文武両道」を堅持するとともに、「守る伝統から創る伝統」をモットーに、暇高らしい満足度の高い学校づくりに、教職員一同全力を尽くしてまいりますので、河北楠葉会の皆様におかれましては、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。最後になりましたが、河北楠葉会の益々の発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。